

みんなが笑っていられる世界へ

古堅小学校六年一組 松田 暉礼

私達、六年生は六月二十三日までの一週間、ガマ見学や平和祈念資料館見学に行きました。平和祈念資料館見学をして、戦争をしていゝる場面を見たり、写真を見たりして、とてもこわかったし、とても悲しかったです。なぜなら、今の人間は、思いやりをもち、みんなで団結をし、協力しあつて生きています。

2

しかし、戦争をしている時の人間は、人が殺し合い、人が人ではなくなつて、今の私達とは、全然違ふ人間になつていました。

私は、今の人々は、協力しあつて、みんなが笑い合う事で、とても楽しく平和な世界になつていゝるのだと思います。

なぜなら、笑顔は幸せで、平和の証だと言えるからです。

なぜ、笑顔が平和の証だと言えるのか、私は、戦争時と今を比べてみました。

戦争の時は、みんなが笑う事よりも、人を
にらみ合い、こわい顔をして、とても人間ら
しくない顔でした。

しかし、今の世界はちよつとした事で、笑
顔が生まれ、笑う事で笑顔がつながっていく
笑顔のりレーが生まれているのです。

おいしいご飯が毎日食べられて、お風呂に入
れて、服が着れて、水が飲める、今の私達の
世の中では、これがあたりまえのようです。

でも、戦争中は、それがあたり前ではなか
った。

「平和な生活があたり前」と思っている人に
伝えて行きたいです。

ガマ見学では、読谷村にある、シムクガマ
とチビチリガマに行つて、とても暗くて、静
かで、今にもゆうれいが出そうな所にかくれ
ていた事を知りました。今の生活では考えら
れない事です。

今の生活では、電気やガス、水が使える事
で、夜になつても明るく、料理がすぐに出て

ます。

しかし、戦争の時は、電気はもちろんなく、火はやっぱりおこす事が出来、水が飲めない日もあったのでしよう。

もし、私がその時代で生まれていたらという事を考えてみました。

まず、朝起きて、私は顔を洗います。でも、その時代には、顔を洗う水はありません。次に、パジャマから、学校に行く時の服に着かえます。でも、もしかしたら着がえる服がな

5

6

いかもしれません。次に、朝ご飯を食べます。しかし、食べ物は、無いかもしれません。その次に、学校に行きます。でも、学校が無くなってしまうたかもしれないし、必要な道具やくつが無くて行けないかもしれないし、先生が補助で行っているかもしれません。次に、私は、サッカーの練習に行きます。でも、そのやる場所や、ボールが無いかもしれません。このように、その時代に生まれていると、今の生活がほとんど出来なくなると、分かり

ました。

だから、私はこの生活を、毎日大切に過ごして行きたいです。

この平和で楽しい生活を続けて行くには、一人一人が、今が平和であるという事を実感して、思いやりの心を忘れずに、そして、今も水や食料が足りない国があるので、募金をしたり、水を大切に使い、命のありがたさを考えながら、感謝して食べ物を食べたいと思いました。

みんなが笑っていられるような世界にするのは、この私達なのです。

憎しみは、憎しみを生みます。人が人であるために、私達は、一人一人が認め合い、思いやりを心がけ、毎日を生懸命笑って生きていきたい。